



富  
邦  
獻  
曆  
案

3168





欽而國家富強ノ良策ヲ案スルニ先以テ數款照  
 會フ遂ナルヲ得ナルモノ比ニ有ナレバ然モ緊節ナル  
 三四ヲ前陳シ以テ逐次精神ノ處在ヲ吐露セントス  
 蓋シスマイルズ氏ノ説ニ社會ノ運轉ヲ妨クルハ其權  
 理ヲ減削スルト同一ニシテ人間ニ最貴重ナル自由ノ  
 權理モ自由ナル道路ナカリセハ存スルヲ得ス故ニ道  
 路運河及ヒ鐵道ノ如キハ其運轉交通ノ用ニ供  
 スルヲ以テ貧富貴賤ノ別ナク人民ノ自由ニ最要  
 用ナルノ具ナリトス試ニ英國ヲシテ其運河鐵道ヲ  
 閉ルモノト想像セシニ其職工ノ業ヲ失フ者ハ四方ニ  
 充テ人口稠密ノ大都府ノ如キハ凍餒死ニ至ル者  
 甚々多カルヘシ云々次ニ米英獨佛其他富強國ハ

大正十一年四月  
 大隈侯爵郵寄贈

暫ク置キ歐羅巴中ニ割據セル中小獨立各國ト  
維或ハ老實或ハ壯大ニシテ階シテ及フヘカラガルモノ  
アリ是レ職トシテ年若且歳入少ナル則リヲ取ルニ  
是ルヘキ秘魯國ヲ援証シテ查辯センノミ蓋シ該國ハ  
南亞墨利加洲内「西班牙」處領ノ最古殖民地ノ一  
ナリレカ戰事相尋クコト茲ニ十一年然ル后一千八  
百二十一年ニ方リ獨立國タル事ヲ公告セリ該國ノ  
面積ハ八万四千六百一十一方里ニシテ人口ハ一千八百六十二  
年政府ニ於テ調査シタル概算ニ從ヘハ三百一十九  
万九千人ナリ全國ヲ分ツテ十八州トナス其包含スル  
人種多クハ土人即印度人他ノ雜種人ニシテ僅カニ  
以太利日耳曼ノ歐洲人ハ稍百分ノ二ニ當ル一千  
八百六十七年ヨリ七十一年迄此國へ輸入シタル

物品ノ價格ヲ平均スレハ二千五百萬圓ニシテ此國  
ヨリ外國へ送致セシ輸出品ノ全額ハ稍三千万  
圓ヨリ多シ蓋シ此國ノ國是ト認定スル處ノ貿  
易及ヒ工業中是レカ基脚タル鐵道架設ノ如キ  
最モ美峯中ノ佳談ナルモノニシテ然モ既ニ歐米又  
明諸國鐵道論ヲ以富國策ノ原質ト是認セザル  
ナク競争シテ該業ヲ隆昌ニスルヲ專途トナセリ  
抑モ秘魯國ノ鐵道線ヲ敷設スルヤ「カルロ」ヨリ  
「オロマア」ニ至ル第一ノ線路ハ一千八百七十四年ノ  
末「ブ」ヨリ「クウスコ」ニ至ル第四ノ線路ハ一千八百  
七十五年ノ末ニ又「チンボット」ヨリ「ヒエアラガ」ニ達スル  
第五ノ線路ハ一千八百七十六年ノ末ニ落成ノ  
見込ナリ此他ノ線路ハ一千八百七十二年ニ或ハ

既ニ開業シ或ハ開業ノ準備既ニ整ハリ該國  
汝府處營ノ鉄道ハ凡テ「ベンリーメーダス氏」ノ建築ス  
ル處ナリ同氏ハ合衆國人ニシテ即チ鉄道請負人  
ナリ一千八百七十三年ノ末ニハ上ニ示シタル鉄路ノ外  
尚鉄路アリ當時建築ニ際シ其長サ二百四十五里  
アリ一千八百七十年ヨリ或ハ八十年ヲ期シテ其  
成ヲ告ントセリ而シテ此線路ノ中ニ就テ最モ要切  
ナル者ハ「リマ府」ヨリ「オラマア」ニ達スル線ニシテ其里  
數九十一里アリ又「アルクイ」ヨリ「プーノ」ニ達スル線  
路ハ長七十六里アリテ「アングス山」ノ「ゴルデル」ヲ嶺ヲ過ル  
カ故築造ノ勞最モ大ナリ蓋シ此鉄路ノ最高處ハ  
海水面ヨリ高キ丈一萬五千六百四十尺ニシテ我  
富岳ノ上ニ三千二百八十尺ノ高山ヲ載セタルニ齊シク

則歐洲第一ノ高山ナル「モンブラン」ノ山頂ヨリ低キ  
丈僅ニ百三十六尺ノミ該路ノ最高點ノ近傍ニハ  
四時宿雪積テ融ケス禽獸草卉皆寒帯諸國  
ニ見ル所ノ者ノミニシテ滿目冬日ノ景況ヲ觀ルモ  
漸マク其中程ニ下レハ暖帯ノ草木繁茂シテ  
「リマ府」ノ近傍ニ至レハ四望熱帯ノ植物皆鬱鬱  
シ爲シ一年冬々ヲ知ラサルノ地ナリ故ニ一日ノ旅行  
能ク人ヲシテ數千里ヲ隔ツル三帯ノ地ヲ經過スル  
ノ思ヲナサシメ實ニ世界中ノ奇觀ナリト  
吾國ニテハ封建ノ制列藩ヲシテ皆割據ノ勢  
アラシメシヲ以テ道路ノ險惡ハ要害ノ一ニシテ  
羨ナル哉山河ノ固メ天與ノ國寶ナリトマテニ  
思ヒタル者ナリキ然ルニ維新甬來彼「スマイ

ルス氏ト其見ヲ同クスル者朝野ニ出現シ  
道路ノ脩築頗ル觀ルヘキ者アルニ至リト雖  
尚府下ヲ去ル僅ニ數里ニシテ人力車モ亦通シ  
難キモノアルヲ免レス況マ彼ノ鐵道運河ノ  
如キ其功用甚タ大ナレ漸ク横濱ヨリ東京  
間ノ七里弱神戸ヨリ西京迄ノ二十里強ノ鐵  
道ニ僅々タル位甚方面北上川ノ運河著手  
アルノミ

伏シテ吾邦地ノ理ヲ觀察スルニ溫帶上等ノ地位ヲ  
占メ地球上ニ在テ既ニ今ヲ去ル六百載前「ガ  
ズニヤ」洲ノ「マルコポーロ」氏主唱シ后ニ「コロングス」氏ノ  
唱張ニ因テ光輝ヲ發起セルノ貴重ナル世界ノ  
黃金土即「エルデンエーデ」ニシテ就中陸羽ノ

如キ然モ其上部ニ居ル政府茲ニ夙ク觀ル處アリテ  
起業公債ノ如キ主トシテ羽陸方面ニ灌ク所謂  
國家經綸ノ為ニ誰カ賛成セラル者アラン邪蓋シ  
陸中ノ釜石釜山秋田ノ阿仁銅山院内銀鑛採  
ノ件ノ如キ羨談トモ謂ツヘク今マ漸ク媒助ト  
ナルヘキ「コークス」然モ世界最上級ニ位セル山形管  
理ノ油戸煤ヲ併行セントスルノ好機會ニ際シ即罷  
ヲ得テ蜀ヲ望ノ活機カヲモ兼テ履踐セサルヲ  
得サルナリ奈何ントナレハ金屬物各種彼ノ「コークス」  
即炭骨ニアラサレハ金屬物ノ作用ヲナス能ハス  
由テ左ニ方策ヲ述

宮城管下野蒜港ヨリ山形管下酒田港ニ陸  
羽蓋シ横斷シテ五十里強ノ鐵道ヲ架設スヘシ

該鉄線ハ即西田川郡油戸邑ノ煤ヲ油戸ヨリ  
酒田ニ輸致同港ニ於テ「ゴークス」ニ參化スヘク  
酒田ヨリ野蒜ニ運送同港ヨリ釜石港ニ納送ス  
ヘシ且ハ内国各地必用ノ場所ハ勿論結局海外  
諸國へ輸出ニ及フヘク且ハ「ガス」ニ作用スルニハ一  
「トン」ニシテ高島煤ヨリ一尺立方丈ノ「ガス」カヲ含  
有セルアリ高島煤ハ延長三尺立方  
ナレトモ是ハ四尺立方是レハ生煤ノ儘ニシ  
テ海ノ内外ヲ問ス搬運作用スヘキノモ  
山形管下ニ係ル横斷本線ヨリ一ノ支線ヲ起  
立スヘシ則山形管下北村山郡楯岡村ヨリ二里  
以北追分ニステ「ゴークス」ヲ置該場ヨリ秋田管下  
院内銀鑛迄十八里弱ノ鉄道ヲ架敷スヘシ  
酒田港ニ鍊鑛所ヲ建置即院内ノ鑛物ヲ

同港ニ送運シテ分拆參化スヘク佐渡ノ鑛物  
ヲモ共ニ友タラシムヘシ阿仁ノ鑛物ヲモ船川港  
ヨリシテ友ニ到ラシムルモ尚煩宜ナルアルヘシ併シ  
「ゴークス」ヲ加護山へ送到スルモ可ナラン哉是レハ  
其機ニ臨ンテ辨查經濟力ニ由ルヘシ  
油戸邑以西綿直炭脈組織セリ即由良ノ濱  
邑三瀬邑兩所ノ如キ顯然タル良煤ナルノミナ  
ラス湯熱海邑ニ到ル迄六七里ノ間炭山起伏  
セリ其ノ煤ノ如キ油戸ト同質タリ東田川郡  
大鳥邑ニ至テハ最モ金屬物アチチニ在ニ富ミ就中  
前同質ノ良煤ヲ包含セリ之レハ鶴ヶ岡即赤川  
ノ水源ニシテ鶴ヶ岡町ヲ距ル十里強ナリ該地モ  
逐次降手スヘシ

酒田港ヲハ三十万圓ヲ以テ築造スヘシ秋田管下  
八郎湖舟川兩所ノ内築港スルナルヘシ依テ酒田  
港ハ秋田港新潟港ト聯絡搬運ノ使利ヲ自  
由ニナサシムヘシ

前陳野蒜港ヨリ酒田港迄楯岡追分ヨリ院  
内銀山迄延長六十八里該鐵道費凡金貳百  
七拾貳萬圓平均日本里程一里四万圓ノ目安  
工事ハ米國風ニ由ル之レ節儉ニシテ安價ナレハ  
ナリ

酒田築港費凡三十万圓和蘭人ウエツセル氏ノ  
目安ニ依ル

鍊鑛所酒田港ニ建設該費凡二十萬圓  
酒田港燈明臺并ニ同港ヨリ連絡各要所電

線ヲ架渡其他工支長以下傭外諸雜費凡  
二十萬圓

野蒜新潟秋田三港ノ件ニ至テハ既ニ本政府  
目途ナルアルヘキヲ以テ算計セス

山形管下置賜全郡金屬物ニ富ミ且炭脈ヲモ  
若干含蓄セリ村山全郡金屬物ニ豊カニ而モ  
炭山余リアル最上郡ノ金屬物ニ飽キ飽海郡ノ  
鳥海山産悉ク石油火脈ナラサルナキ枚擧スルニ  
遑アラズ今現レタル北村山郡富並村ノ煤坑ハ方  
六尺ニシテ長サ六十間タリ其他十余ヶ処ニ位置ヲ  
ナセリ然モ最上川ノ淵岸ニ近接多クハ蒸汽  
釜ニ適ス即唐津ニ彷彿タリ  
又レ政府經濟ノ為ニ圖ルニ起業公債ヲ以テ湖

沼ヲ疏通拓開スル等ハ暫ク措キ彼ノ鉄道運河  
蓋シ搬運ノ便宜ヲ謀ルヲ以テ得策ノ要領トナスヘシ  
何トナレハ鉄道運河ノ便利緒ニ就カハ米穀ノ價格  
モ騰起スヘク隨テ精良ニ趨クヘシ依テ沼湖等ノ  
拓開ハ后ニナスヘク前件三百萬圓余ノ額ハ昨明治十一  
載ノ起業公債ノ中ヲ以テ賄事トス抑モ該業完  
全スルニ至ラハ漸進逐次ニ壹億萬圓ノ起業公債ヲ  
更ニ醸ス該鉄線ヲ以テ進歩セシメ北ハ院内線ヲ  
秋田管下久保田ニ敷延一線ハ舟川港ニ一線米國  
柔港ヨリ新ヨーク港ニ達スルノ鉄路ニ規ヲ採リ大  
直線トシテ青森ニ及ヒ夫レヨリ龍動テームスタン  
子ルニ劬ヒ海産ヲ函館ニ支レヨリ札幌府ニ及ヒ夫  
レヨリ宗谷港ニ普及爰ニ線ヲ止南ハ山形管下

楯岡ヨリ東山道ノ本線ヲ直脈トシ漸次福嶋管内ヲ  
經過枋木縣下ヲ宇都宮ニ取リ旧例幣使街道ヲ  
經過シテ即中仙道ノ山路ヲ一直線ニ步ヲ進メ滋  
賀縣下ノ鉄線ニ架スヘシ神戸停車場ヨリ以西下ノ  
關ニ益々進テ鹿兒島ニ至テ止ヘシ事爰ニ至ラハ  
謂處ノ世界三寶ナル鉄ニ石炭ニ石油ニ油然沛宇  
トシテ起發スル識者ヲ俟テ后曰一ハカラナルナリ  
何ヲマ米國昨歲十二月報信ニ係ル石油即チ口セ  
ンライルノミニテ輸出高四億萬弗噫何ツ巨大ナル哉ノ  
嘆ヲナスモノシレアラン耶石油ト謂ヒ石炭ト謂ヒ鉄ト  
謂ヒ其他金屬諸種等ニ於テマ況マ佛國六億萬  
邦ノ織物ヲマ期シテ待ヘキノミ必スマ米佛英獨萬  
邦ノ右ニ出テ富且強共ニ上進スルニ到ル信シテ疑ハ



ナルナリ仰ヒテ惟ミルニ吾カ帝國總理衙門主務ノ  
衝ニ當ル潤達聰明閣下等ノ如キ安リ救テ彼ノ秘魯  
國ノ政風ニ之レ慣ハンマト佑忠モ亦思想ヲ爰ニ起シ  
來ラカルニアラサレトモ然レ氏彼ノ新造ノ小國ニシテ彼  
レカ如ク非常ノ大土木ヲ作用スル寔ニ以テ贊美  
シテ以テ方向ヲ爰ニ取ラカルヲ得ン耶依之切ニ慾望  
スラク閣下等英斷果決實地ニ執行之レ有ン爰  
ヲ欽テ以テ聞ス

明治十三年四月

山形縣三等屬伊東佑忠



内務卿伊藤博文殿

大藏卿大隈重信殿

工部卿井上馨殿

